



発行：放送大学福島学習センター

〒963-8025 郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

機関誌～「もみじ」の由来～

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。



古典を読むということ

—AI 時代における禅の学び

放送大学福島学習センター 客員教授 何 燕生

本年度より、再び客員教員として教壇に立つ機会をいただいた。振り返れば、最初にこの場で教鞭を執ったのは今から二十数年前のことであり、歳月の流れの早さをあらためて実感している。いわば四半世紀を経ての再任であるが、このたび再びご縁をいただいたことを、心よりありがたく思っている。

四月五日よりゼミが始動したが、驚くべきことに、当時の受講生のうち数名が教室を訪れてくださった。すでに七十代、あるいは八十代に達しておられ、いわゆる後期高齢者と呼ばれる世代である。しかしながら、その学びに向かう真摯な姿勢、衰えることのない知的な好奇心には、ただただ頭を下げる思いであった。学問とは、年齢や立場を超えて人を引きつけるものであり、また人を生涯にわたって支え続ける営みであることを、改めて教えられた次第である。

私の専門は宗教学であるが、主として東アジアの禅思想を研究対象としてきた。そのため、今回のゼミにおいても、再び禅に関する古典を読むことを主題とした。もっとも、今日においては、いわゆるデジタル時代、さらには AI 時代と呼ばれる状況の中で、膨大な情報が瞬時に入手可能となり、知の在り方そのものが大きく変容しつつある。そのような時代にあって、あえて古典を読むことの意義はどこにあるのか、という問いは避けて通ることができない。

古典を読むとは、単に過去の知識を確認する作業ではない。それは、時間を隔てた他者の思索と向き合い、言葉の背後にある思考の運動を追体験することである。とりわけ禅籍においては、言葉はしばしば論理的整合性よりも、直観的な覚醒や存在の転換を指し示すために用いられる。そのため、表層的な意味理解にとどまらず、言葉が開く思索の空間に身を置くことが求められる。そこでは、読む者自身の在り方が問われ、思考の枠組みそのものが揺さぶられるのである。

また、禅の古典は、しばしば「語りえぬもの」を語ろうとする試みの集積でもある。言語によっては捉えきれない経験や真理を、あえて言葉に託そうとするその営みは、現代における言語やコミュニケーションの限界を考える上でも重要な示唆を与えてくれる。AI が高度に言語を処理し、生成する時代にあってこそ、人間にとっての「言葉」とは何か、理解とは何かという根源的な問いが、いっそう鋭く浮かび上がるのではないだろうか。

さらに、古典を読むという行為は、効率や即時性とは異なる時間の流れを生きることである。繰り返す読み、立ち止まり、時に理解に至らぬまま考え続ける。そのような「遅い思考」の営みこそが、深い理解と自己変容をもたらすのである。先に述べた高齢の受講生の方々の姿は、まさにこのような学びの在り方を体現しているように思われた。

四半世紀を経て再び開かれたこのゼミの場において、若い世代とともに、また時に世代を超えて、古典と向き合う時間を共有できることは、私にとってこの上ない喜びである。変化の激しい時代にあってこそ、変わらぬものに立ち返り、そこから新たな思索を紡ぎ出すこと。その営みの中にこそ、学問の本質的な意義があると信じている。

令和7年度第2学期 卒業証書・学位記授与式

令和8年3月28日（土）福島学習センター、3月29日（日）いわきサテライトスペースにて、卒業証書・学位記授与式が行われ、卒業を迎えられた30名のうち7名の出席がありました。

学歌斉唱後、中田前所長から一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、お祝いの式辞がありました。

続いて卒業生を代表して、福島学習センターでは齋藤綾乃さん、いわきサテライトスペースでは櫛田さやかさんが「御礼のことば」を述べました。

福島学習センター・いわきサテライトスペースにおける卒業生数（のべ数）は、大学院64名 教養学部1146名となりました。

御礼のことば

福島学習センター所属 齋藤 綾乃

卒業生を代表してこの場で感謝の言葉を述べる機会を賜れたこと、大変光栄に存じます。本日は、私達卒業生のために学位記授与式を挙行していただき心より御礼を申し上げます。

卒業生それぞれに、学生生活の時間を振り返ってさまざまな思いが溢れていることと思います。おひとりおひとりの話を聞いてみたいところではございますが、僣越ながら私の学生生活の話をさせていただきます。

私は、科目履修生として2年半、その後全科生として「心理・教育コース」に3年次編入し、2年で卒業することができました。もともとは短期大学を卒業し、社会人生活を送っておりました。ずっと大学に行ってみたいという思いを持ち続けていたのですが、社会人生活の中でさまざまな人と出会い、自分が生きている社会での問題に意識が向き、自分が勉強したい分野が定まったタイミングで思い切って一歩踏み出しました。科目履修生として学んでいる間は、久しぶりの勉強に苦戦しながらもまだ気持ちと時間に余裕があり仕事との両立も無理がなく、ただただ楽しい、もっと知りたいという気持ちで過ごしていました。その後、卒業と認定心理士の資格取得を目標に全科生として入学しましたが、仕事をしながら単位を取得するのは想像以上に大変ではありました。特に全科生の3年次は、卒業単位をできる限り取得することを目標にしていたので、仕事と勉強で毎日が慌ただしく、よく頑張れたものだ自分に感心してしまいます。毎日毎日、「やらないと進まない！やれば進む！」と当たり前のことをブツブツ言いながら、仕事から帰ったらまず机に向かっていました。勉強するペースを掴み、気持ちに余裕が出てきた頃には学習センターでの面接授業に参加するようになりました。面接授業では、レポートを書く課題があるためそれもまた頭を抱えていました。なにせ文章を書く習慣がなくなっているため、どうすれば良いか、本当にわからないのです。ですが、先生方の粘り強くあたたかいご指導のおかげで、毎回なんとか面接授業をクリアしていききました。そして、授業に参加している他の学生も同じように悩みながら、先生に質問しながら試行錯誤している姿を見て「自分だけが悩んでいるわけではないんだな。みんななんとかしようと頑張っているんだな。」と体感し、他の学生の姿にとっても励まされていました。自分との戦いの大事さと、先生や仲間がいる心強さ・有難さを改めて感じる事ができた日々でした。

この放送大学で学んだ時間は、10代の頃の勉強とは、また違った感覚がありました。社会に出てから勉強すること、目標に向かい努力できたこと、周りへの感謝を改めて感じられたこと、これらは私の人生において宝物です。また、知識を得たことでニュースや身の回りで起こる出来事について、いままでではそもそも関心が持てなかったり、一辺倒な考えを持っ



たりしていましたが、今は思考が柔軟になった気がします。また、最近の悩みは、わからないことがわかるようになると、さらにわからないということがわかるようになる、という無限のループに陥ってしまうことです。それでも理解しようとすればそれだけ知見は広がるし、なにより学ぶ楽しさを知りましたので、まさに「生涯学習」の始まりに立った気持ちです。今後過ごす人生の中で、また新たな課題に出会い、人と意見を交わし、考えを巡らせることが今からとても楽しみです。

このような素晴らしい時間を過ごせたことは、大学の教職員の皆様はじめ、関係する様々な方々のご尽力があってこそです。改めまして、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。皆様の益々のご活躍とご健康をご祈念いたしまして、御礼のことばといたします。

令和8年3月28日

御礼のことば

いわきサテライトスペース所属 櫛田 さやか

本日は、このような学位記授与式をお開きいただき、所長 中田先生をはじめご臨席の皆さまに心より御礼申し上げます。

私が放送大学に編入学をしたのは、2021年10月のことでした。その1年ほど前から、我が家では家族のケアのウエイトが急速に高まっていました。小学生の息子が学校を休みがちになり、さらに同居する義理の両親の認知機能の低下が深刻になっていました。息子の不登校支援と義両親ふたりの認知症介護のため、私自身の働き方を在宅中心に調整する必要がありましたが、同時に欲張りな私は、せっかく増える在宅時間を何かプラスに生かせないか、あれこれ思案をしていました。時はコロナ禍の真ただ中、放送大学では自宅で単位認定試験が受けられるようになったとのこと、これだ！と思いました。

フリーランスでデザイン関係の仕事をする私は、学校や職業訓練で授業を担当することも多く、指導の場面で「学びの手前の課題」に向き合うことが増えていました。モチベーションやメンタルヘルスについての知識はこれらの課題解決の助けになるのではないかと、常々感じていた必要性から専攻を「心理と教育コース」にして3年次編入学、卒業まで3年計画で学習をスタートしました。仕事、家事、子育て、介護を経ての学習時間の確保は、ご想像の通り簡単なことではありません。ようやくイヤホンをして授業を聞き始めても、睡魔に負け、気付けば動画は終わり、教科書は居眠りの落書きだらけになることもしばしばでした。それでも、新しく出会う言葉や考え方には、これまでの疑問の霧を晴らすようなパワーがあり、学んだことが次の仕事や家族のケアに早速役立つようなこともあるなど、学生時代とは違った社会人としての学びの醍醐味を存分に味わう日々を送ることができました。

順調に単位修得を進めて予定の3年になった頃、このまま卒業するのは何だか惜しいように感じ、さらに欲張って卒業研究にチャレンジすることにしました。テーマを教育社会学分野に定め、専門の先生のアドバイスをいただきながら、たくさんの文献に埋もれるようにして卒業論文を執筆した期間は、たいへんながらもとても豊かな時間だったと感じます。

本日、私の欲張り学習は、4年半の在学期間を経て卒業となりました。在学期間中は、家族のケアにも変化がありました。認知症の義両親はふたり仲良く同じ施設に入所することができました。不登校だった息子は、暗く長かったトンネルを抜けて自分の進む道を見つけ、この3月に中学校を卒業しました。思いがけず親子一緒に卒業の春を迎えられたことがとてもうれしく、欲張って学び続けて良かったなあと今は感じています。

放送大学での学びは一旦の区切りとなりますが、探求や研鑽に終わりはありません。今後もさらなる向上のため、好奇心と意欲を持って学び続けることをお誓い申し上げます。ここまでの学びをお支えくださった放送大学の先生方、スタッフの皆さま、共に学んだ学生の皆さま、本当にありがとうございました。放送大学とご関係の皆さまの今後益々のご発展をお祈りして、御礼の言葉とさせていただきます。

令和8年3月29日



令和8年度第1学期 入学者の集い



卒業証書・学位記授与式に引き続き、令和8年度第1学期入学者の集いとオリエンテーションが行われました。

塩谷所長の挨拶の後、オリエンテーションでは放送授業、面接授業、オンライン授業、施設の利用方法、客員教員ゼミや所長カフェ等の説明が行われ、新入生の皆さんは熱心に聞いておられました。